

太宰府市短歌ポスト第二百二十七期

入選歌(令和七年八月二十二日)

撰者 竹森 祐彦

梅散りて温^{ぬる}む境内衣替え冬服たたむ巫女の手やさし

福岡市 古賀 幸人

梅ヶ枝の香りと人の祈りのせ風鈴が鳴る令和の都

福岡市 橋口 廉

妻亡くし旅人^{たびと}の想いと重なりぬ我は生きけり令和の里で

太宰府市 中尾 武史

桜なく梅もなけれど都府楼に命満てたり初夏の緑は

春日市 甲斐 智朗

心字池すっぽり包み樟若葉水面に映し水面彩る

福岡市 白井 道義

二歳から毎年来ている太宰府へ今年も来たよ二歳を連れて

福岡市 藤井 果鈴

ネクタイが乱れるほどに風は吹く梅ヶ枝もちはまだ冷めないで

大阪府 山内 夏穂

春の日の都府楼址に寝ころべば花びらは雲のうへをすべりぬ

大野城市 染川 ゆり

小中学生の部

太宰府であの日聞こえた風鈴は今も変わらず音を届けて

大分県 久保 朱璃

だざいふのてんまんぐうにひとめぼれおもわず声ですごいといった

福岡市 山喜多 桃